

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 11月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	0171401748		
法人名	有限会社ベストケアサービス		
事業所名	グループホーム香雪園		
所在地	函館市高丘町41番12号 (電話) 0138-36-5500		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成19年9月28日	評価確定日	平成19年11月12日

【情報提供票より】(19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)18年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15人, 非常勤 1人, 常勤換算 15.5人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	27,000~32,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5	要介護2	7		
要介護3	3	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 81.5 歳	最低	59 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	函館渡辺病院・田中歯科医院・たけだクリニック
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は湯の川温泉東部の閑静な住宅街に立地し、居間からは函館山を眺めめることができるなど恵まれた環境に位置しており利用者はゆったりと落ち着いて生活している。職員は日々理念を確認しながら支援を実践しており、今後もケアサービスの質の向上が期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価は今回が初めてである。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で話し合いながら自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1度運営推進会議を開催しており、活発な意見交換を行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	職員は家族の来訪時には積極的な声かけをし、家族が意見・苦情等を伝えやすい雰囲気づくりに努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており近隣住民と接する場面が多く、また町内会の行事参加により近隣小学校の児童とも交流する機会があり、地域との連携が取れるよう努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「愛と笑顔」という事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の全体会議やユニットごとのミーティング時に理念について話し合っ確認し、日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、行事参加を通じて近隣住民や児童と接する機会が多く、地域との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で話し合い、自己評価に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に運営推進会議を開催して活発な意見交換を行っているが、議事録を整備するまでには至っていない。</p>	○	<p>今後、運営推進会議の議題だけではなく、話し合われた内容や課題等についても記録として残すことが期待される。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者と密に連絡を取っており、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>金銭管理については、3ヶ月に1度利用者の通帳をコピーして家族に報告している。しかし、定期的に事業所便りを発行して利用者の暮らしぶり等を伝えるまでには至っていない。</p>	○	<p>今後、定期的に事業所便りを発行して家族に送付し、利用者の日々の生活の様子や健康状態について家族に報告することが期待される。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時に職員は家族に積極的な声かけをし、気軽に意見・要望等を伝えられるような雰囲気づくりに努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は職員の異動による利用者への影響を十分理解しており、職員の多くをを常勤で採用するなどして離職等を少なくする工夫をし利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は南北海道連絡協議会や保健所による講習会に参加し、職員育成に努めている。また、職員は他事業所見学や外部研修にも積極的に参加している。	○	今後、職員採用時の研修も積極的に行うことが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道連絡協議会のブロック会議を通じて他事業所の職員との交流を深め、サービスの質の向上に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者本人・家族と何回も面談して顔馴染みになり、利用者が事業所の雰囲気になれるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理・裁縫・掃除など、職員は利用者から教えてもらうことが多く、一緒に生活しながら学び支え合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族からの情報を基に職員は利用者一人ひとりの希望の把握に努め、日々のケアに取り組んでいる。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月のユニット会議にて職員間で話し合い、利用者が安心して暮らせるよう家族の意見も採り入れた介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は6ヶ月としているが、利用者の身体状況・家族の意向の変化によりそのつど話し合い、見直しを行っている。また、項目により3ヶ月に1度の短期計画も立てている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族も自由に宿泊できる体制を整えたり、自宅への帰宅の際に送迎するなど柔軟な支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・皮膚科・歯科・眼科の医師が往診しており、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在終末期のあり方について方針を整えているところである。	○	今後、重度化・終末期に向けての方針を定め、本人・家族とも話し合い情報を共有することが期待される。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りを損ねることのないよう心がけており、利用者への言葉かけや対応は常に穏やかである。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調やペースを考慮し、その人らしい生活となるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力量に応じ、食事の準備や後片付けなどを職員と一緒にやっている。	○	今後、職員も利用者と同じ食卓に着き、楽しみながら食事を摂ることが期待される。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに応じた入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	折紙・ぬり絵・カルタ・カラオケなど、一人ひとりの好みに応じた楽しみごとの支援を行っている。また、民謡やハワイアンボランティアの受け入れも行っており、利用者の生活に張り合いが持てるよう工夫している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はできるだけ日常的に戸外に出掛けられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上の理由から施錠しているが、日中は鍵をかけておらず利用者の自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署の協力の下、利用者も参加しての避難訓練を実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態や習慣に応じて必要な栄養バランスや水分量を確保できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るくゆったりとしており、車いすで移動が可能なように広々とした造りになっている。光・温度・音も適宜調節されており、利用者が過ごしやすいよう配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた馴染みの物が持ち込まれており、安心して暮らせるような空間となっている。		

 は、重点項目。